

あきたスマートシティ地域E S C O事業提案審査の講評

秋田市では、県都あきた成長プランに掲げる成長戦略であります「環境立市あきたの実現」に向けて、昨年度より、「あきたスマートシティ・プロジェクト」を立ち上げております。

このプロジェクトを構成する事業の一つが地域E S C O事業であり、初期投資なしで省エネルギーおよび温室効果ガスの排出抑制を図ることができるとともに、複数の施設をひとまとめにすることで、比較的小規模な施設についても事業が成立する実績を作ることににより、市内の民間事業者にもE S C O事業の普及を目指す取組であります。

今回、対象としました4施設は、太陽光パネルを設置する山王中学校を除き、いずれも竣工から20年以上を経過している施設であり、現時点で大規模改修の予定もないことから、E S C O事業の導入による省エネルギー化が有効であると判断し、事業を実施することといたしました。

公募条件として、対象施設全体の省エネルギー率を5%以上、事業期間15年以内等としたところ、1グループより応募がありました。提案審査委員会において、提出された事業提案書とプレゼンテーションおよび質疑応答の内容について、公平厳正に審査した結果、ジョンソンコントロールズ株式会社および芙蓉総合リース株式会社で構成されるグループを最優秀提案として、全員一致で決定いたしました。

提案内容としては、秋田テルサにはCO₂センサーによる空調機ファンの制御、冷温水2次ポンプのインバータ制御、デマンドコントロールの実施、サンライフ秋田には体育館・プール照明の高効率化、プール濾過ポンプのインバータ化、GHP空調の導入と既設EHPの運用変更、保健センターにはGHP個別空調化、EHP一般系統ホール用エアコンの設置、事務所照明の高効率化、山王中学校には太陽光発電設備の導入を行うもので、全体として13.2%の高いエネルギー削減量を達成する提案となっており、補助金の有無による両提案の平均値は、400点満点中348点(87%)と高い得点であり、評価の各項目においても得点のばらつきが少なく、総合的な観点から優れた提案として評価するものです。

平成24年3月27日

あきたスマートシティ地域E S C O事業に関する
公募型プロポーザル審査委員長 高橋 身佳